

平成29年度（平成30年度実施事業）
 愛川町町民参加推進会議協働事業審査部会
 （提案型協働事業） 審査結果報告

1. 審査対象事業

NO	事業名	提案団体／事業担当課
1	認知症予防カフェ	認知症予防カフェ実行委員会 ／民生部高齢介護課介護保険班
2	障がい者雇用を目指して地域のごみを 楽しく減量・リサイクル化	神奈川わかものシンクタンク ／環境経済部環境課廃棄物対策班
3	学習支援「土曜寺子屋」	非営利組織「小さな森の学校」 ／教育委員会教育総務課
4	登山道（仏果山ほか）の整備等事業 山に囲まれた町あいかわ ～山岳環境を活用する事業～	Aichan Adventure（あいちゃんアドベンチャー） ／環境経済部商工観光課観光振興班
5	町観光キャラクター「あいちゃん」 サポーター事業	神奈川県立愛川高等学校バレーボール部有志 ／環境経済部商工観光課観光振興班
6	八菅山いこいの森樹名板等作成事業	サークル愛川自然観察会 ／建設部都市施設課公園緑地班
7	地域の安全・安心を皆で支える事業 ～地域防犯活動支援事業～	NPO法人防犯パトロール ブルーライン ／民生部住民課交通防犯班

※ No. 1～No. 3 は住民提案型協働事業、No. 4～No. 7 は行政提案型協働事業

2. 審査部会の開催

(1) 審査部会の実施状況

開催日：平成29年11月11日（土）午前9時00分～午後5時00分

会場：愛川町役場分館1階 会議室2

◆書類審査（非公開）

・内容 ①審査部会の進め方、②書類審査

◆公開ヒアリング（公開）及び最終審査（非公開）

・内容 ①公開ヒアリングの趣旨と審査基準の説明、②個別ヒアリング、
③審査結果の取りまとめ、④講評

(2) 審査部会委員

委員氏名	選出区分	備考
二瓶長記	専門委員	会長
平川嘉則	町の各種施策に知見を有する者	副会長
翁長陽子	町の各種施策に知見を有する者	
小倉理男	公益活動に実績のある者	
諏訪部勲	公募委員	

(3) 審査方法

ア 審査基準に基づく採点

書類審査及び公開ヒアリングでの質疑応答などの内容を踏まえ、別紙「審査基準」に基づき採点を行った。(10の審査項目について、各5点満点で採点(各事業50点満点))

委員の合計総評価点の平均が30点未満又は過半数の委員が30点未満の評価をした事業は、不採用とする。)

委員が団体の構成員に含まれている事業(今回、該当事業なし。)については、その委員は当該事業の審査に加わらず、その他委員の総評点に基づき採点を行うこととしている。

イ 委員間の意見取りまとめ

公開ヒアリング終了後に各委員の採点結果を集約し、各事業に対する採点結果の確認とともに、各委員の意見を取りまとめ、審査部会としての評価や条件等についての協議、取りまとめを行った。

3. 審査結果

(1) 提案型協働事業審査結果（住民提案型協働事業）

NO	事業名	提案団体
1	認知症予防カフェ	認知症予防カフェ 実行委員会
<p>【事業概要】</p> <p>現在、要介護認定を受けている高齢者の多くが、認知症であると言われ、認定を受けていなくとも、軽度の認知障害が疑われる高齢者は少なくないと言われています。</p> <p>高齢となっても、誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して、暮らすためには、町内各地にケアをする人、される人が集い、気軽に交流できる、認知症予防カフェなど的高齢者の「居場所」が必要です。</p> <p>そのため、団体が運営する認知症予防カフェの場を活用し、実際のお客さんのいるカフェでの実践を通じて、ボランティアの育成を図ることにより、町内各地での認知症予防カフェの開催や高齢者サロンへの支援も目指すものです。</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・認知症予防カフェ内でのボランティア育成（実施回数：年間12回） ※独自に見学・実習希望者を募るほか、町のコグニサイズ教室、認知症サポーター養成講座などの受講経験者等を受け入れる ※団体の持つ認知症予防カフェの運営ノウハウを活用しボランティアを育成する <p>【団体の役割】</p> <p>①団体の運営する、認知症予防カフェへの見学・実習希望者等の受け入れ及び育成</p> <p>【町の役割】</p> <p>①開催場所の確保などの支援（自治会等への連絡・調整） ②町の既存事業を生かした、回想法、コグニサイズ教室等の開催及び受講者への周知</p> <p>【提案事業のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none">・認知症予防カフェ等の運営を希望するボランティアは実習による実践的なスキルを身に付けやすい。・町の各種講座（コグニサイズ教室、認知症サポーター講座）受講経験者の活用が図られる。・町としても今後の認知症予防施策の立案にあたり、認知症予防カフェの運営状況を通じ、状況把握と利用者ニーズ等の情報を収集することができる。・元気な高齢者が、他の高齢者を支える高齢者間の互助や、住民相互で支え合う仕組みの構築が期待できる。		
<p>【審査部会講評】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 今日的な社会的課題への取り組みが評価できる。○ 認知症予防の観点から脳機能の活性化に取り組む姿勢が公的事業として評価できる。○ カフェ参加者が講師を兼ねる取り組みや、専門資格修得者による対応も可能な体制が、事業評価を高める要因となっている。○ 従来 of 事業に加え、明るく拓かれた事業（本提案事業）として、ボランティア育成などを展開することが望まれる。○ 担当課との密な連携、また、将来的には、この事業が町内で広がることによる地域への支援対応が課題となる。		
<p>【審査の結果】</p> <p>協働事業として実施することがふさわしい提案であると考える。</p>		

NO	事業名	提案団体
2	障がい者雇用を目指して地域のごみを楽しく減量・リサイクル化	神奈川わかものシンクタンク
<p>【事業概要】 地域で、ごみの資源化や減量化を目的に「楽しく学び、集め（減らす）、使う」視点で、もやすごみの減量化・リサイクル化を推進するとともに、活動を通じた地域の交流促進を図る。 当面は、下小沢地区でモデルケースとして拠点回収等に取り組み、将来的には「廃プラ（CD及びDVDのケース）」（以下、「廃プラ」という。）の資源化を目指す。</p> <p>【事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域における「ごみの減量化・資源化」を楽しく学び交流する場の実践 （地元子ども会等の団体との連携） 2 廃プラの拠点収集 （下小沢地区での拠点収集を予定。地元の紙類再資源化収納庫を利用予定。：自治会調整済み） ※障がい者を雇用している地域の廃棄物処理業者と連携し、障がい者雇用の安定化や創出にも寄与する 3 「廃プラ」のリサイクル素材を原料とした学校、家庭、職場で使用できる文房具等のアイデアを募集 4 障がい者雇用の住民理解を促すための施設（「廃プラ」仕分け施設）見学会の開催 5 年間の活動を冊子（報告書）にまとめる <p>【団体の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ごみの減量化・資源化を楽しく学び交流する場の実践（地元子ども会等の団体との連携） ②「廃プラ」の集団資源回収、拠点収集に係る廃棄物処理業者等との連絡調整 ③「廃プラ」を原料とした学校、家庭、職場で使用できる文房具等のアイデア募集 ④住民理解を促す施設見学会の開催 ⑤報告書作成 ⑥「廃プラ」を「もやすごみ」から「資源A」に変更することを町へ提案 <p>【町の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①家庭に定着させたいごみの減量化方針の検討 ②本事業の成果（報告書）を環境学習等に活用する <p>【提案事業のポイント】</p> <p>・「廃プラ」のリサイクルをテーマに、世代を超えた地域の交流基盤が、若い世代の手によって形成されるなど、若い世代の地域活動参画のきっかけとなることや、この事業により形成された地域の交流基盤は、他の地域活動にも生かされることが期待される。</p>		
<p>【審査部会講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域課題の解決に取り組む団体のスタンスが評価できる。 ○ ごみの減量化と障がい者の自立支援を結びつけた取り組みは評価でき、将来性も期待できる。 ○ ごみの減量化と資源化は、今日的な行政課題で、その担い手として活動するこの取り組みは協働事業にふさわしい。 ○ この事業は、全国レベルでの展開・定着化が望ましく、その取り組みの一環であることの自覚を持ちつつ、事業を拡充すると良い。 		
<p>【審査の結果】 協働事業として実施することがふさわしい事業であると考える。</p>		

NO	事業名	提案団体
3	学習支援「土曜寺子屋」	非営利組織「小さな森の学校」

【事業概要】

外国人世帯や子どもの養育環境に課題等を抱える世帯の子どもを対象に学習支援及び体験学習などを実施し、学習環境や居場所の提供と併せ、その保護者への支援も行う。また、学校、地域、地元の高校などとの連携を進めることで、地域の住民を巻き込み、地域で子どもを育てる環境整備につなげる。平成30年度は新たに、学習支援等を受けている子どもの保護者を対象に「車座トーク」を開催し、同じ悩みを持つ親同士の交流を促し、子育てにおける孤立感の解消を図る。

【事業内容】

- 1 学習支援 年間33回（指導科目：小学生 国語/算数、中学生 数学/英語）
 - ・土曜寺子屋 23回（毎月第1、第3土曜日の2回）（対象：小3～中3）
 - ・中学生補修 6回（5、7、8、10、11、1月の月1回）
 - ・中学生夏期・冬期講習会 4回
- 2 体験学習 年間14回（対象：小学校3年生～中学校3年生）
 - ・食育「お料理教室」2回 ・コーラス体験「エベッツソウル合唱団」3回
 - ・バトミントン2回 ・アート講座4回 ・ドテラアート3回
- 3 悩み事相談などの保護者支援 年間36回
 - ・車座トーク 3回
 - ・保護者相談 年間33回（※学習支援に合わせ、個別相談の実施）
- 4 拡大研修会、成果発表会など、地域住民、学校教育関係者などを対象とした事業を実施

【団体の役割】

- ①土曜寺子屋の運営による学習支援、体験学習、相談などの支援（保護者を含む）
- ②研修会、発表会等の実施
- ③大学生、高校生ボランティアとの連携

【町の役割】

- ①対象者への周知。（教職員による声掛け等）
- ②事業実施会場の手配（使用料減免等の対応）
- ③地域住民（自治会等）への周知（連絡調整等）

【提案事業のポイント】

- ・提案団体に所属している退職職員・学習サポーター・介助員など教育分野や臨床心理士・精神保健福祉士・保育士など福祉分野の人材による、専門性を生かした支援が実施できる。
- ・個別事情に配慮しつつ、地域住民とのコミュニケーションを促すことや、学生ボランティアと連携することなどで、地域で子育てをする環境整備及び次世代の担い手育成につなげていく。

【審査部会講評】

- 事業の狙いや、カリキュラムなど、創造的工夫が感じられ、更なる充実に期待がかかる。
- アンケート実施にあたり、基本的分析は可能な限り数値化を試みてほしい。
- 新たに取り組む「車座トーク」（保護者支援）は、趣旨、ネーミングともに素晴らしく、大きな成果を期待したい。
- 町等との連携の強化に課題がある。（送迎フォロー、国際交流等）

【審査の結果】

協働事業として実施することがふさわしい事業であると考えます。

(2) 提案型協働事業審査結果 (行政提案型協働事業)

NO	事業名	提案団体
1	登山道（仏果山ほか）の整備等事業 山に囲まれた町あいかわ ～山岳環境を活用する事業～	Aichan Adventure (あいちゃんアドベンチャー)
<p>【事業概要】 愛川町の山岳環境は、登山客の往来が少ないことなどの要因から、登山道が十分に活用されず、荒れている場所もあるため、積極的な山岳環境の整備と活用を促進し、恒常的に山に人が入る状況を創出する。</p> <p>【事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none">1 登山道、廃道の精査や整備（枯れ枝や、倒木の除去等の軽作業を含む。）2 イベント開催等 （山に親しむ機会の創出：子ども登山、トレイルラン、ハイキング、フィールドワーク）3 観光促進のためのガイド、見やすい登山マップの作成 <p>【団体の役割】</p> <ol style="list-style-type: none">①造林組合等との交渉②各事業の募集と広報活動（作業ボランティア、イベント参加者の募集）③関連団体、組織への呼びかけと連携（関連団体等と連携し、同時に複数案件の進捗を図る。）④事業の企画と運営（山に親しむ機会の創出） <p>【町の役割】</p> <ol style="list-style-type: none">①団体の地権者対応への支援②関係法令等の情報提供、許認可関係の調整 <p>【提案事業のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none">・単に、登山道の整備・維持管理に留まらず、整備後の活用方策も念頭に置いており、登山道、廃道の精査や整備、枯れ枝・倒木の除去などの作業時や、イベント開催時には、その準備作業も含め、作業ボランティアを募るなど、愛川の山の整備に多くの人達に関わりを持たせるなど、登山客の誘致効果も期待される。・地元山岳会や自然環境の保全を目的に活動している団体等との連携により、情報共有することで、山岳環境の活用や、町の豊かな自然を守ることにつながり、地域資源の涵養に資する効果も期待される。		
<p>【審査部会講評】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 別事業で評価の高い団体が、新たに登山道整備で自らの持つノウハウを活用しようとする心意気に魅かれるものがある。○ 事業についてのロードマップができており、実現性が担保されているため、大いに期待したい。○ 「年間を通じて、愛川の山の活用の仕組みづくりに寄与したい」としており、今後、山岳会をはじめ、地域住民等との連携の進め方に課題がある。		
<p>【審査の結果】 協働事業として実施することがふさわしい事業であるとする。</p>		

NO	事業名	提案団体
2	町観光キャラクター「あいちゃん」 サポーター事業	神奈川県立愛川高等学校 バレーボール部有志
<p>【事業概要】 町観光キャラクター「あいちゃん」を活用し、町の魅力（観光、文化、歴史等）を県内外にPRするもので、町内で学ぶ高校生有志（若者）のアイデアを十分に活かし、愛川町の知名度を高めるもの。</p> <p>【事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 町の歴史・文化などの学習（町若手職員と共に、「あいちゃん」のPR方法を検討） 2 「あいちゃん」の動き、しぐさなどの検討・確認、アテンドの練習 3 各種イベントへの出演 4 年間活動報告と成果の発表 <p>【団体の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「あいちゃん」の着ぐるみを着用してのイベント出演及びアテンド（ステージイベントでの観光PRを含む。） ②「あいちゃん」の効果的なPR方法の検討・提案 ③地域情報の提供（あいちゃんツイッター地域情報の充実） <p>【町の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①イベント会場への送迎（着ぐるみ着用役、アテンド役の高校生有志（若者））及び現地での具体的な業務の指示 ②町の基本的な観光情報の提供 <p>【提案事業のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生有志（若者）と行政（町）との協働による、観光PRは珍しく、インパクトがある。 ・町の魅力をPRするためには、町の事を知らなければならず、高校生有志（若者）の地域貢献が学びとつながり、学ぶことで、町への愛着の深まりが期待される。 ・協働事業は、町との対等な立場で実施されるため、高校生有志（若者）の自立心や自主性の発達が期待される。 		
<p>【審査部会講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 町からの提案に、挑戦する姿勢が素晴らしい。 ○ テレビ、新聞等、メディアへの情報発信を心がけ、話題性を創造してもらいたい。（町のフォローアップが必要。） ○ 積極的に各地のイベントへ参加し、PRしてほしい。 ○ 高校生らしい、意表を突いたアイデアの注入による大胆な挑戦を期待したい。（人材育成にも役立つ。） ○ 地域との連携や、事業の継続性に課題がある。 		
<p>【審査の結果】 協働事業として実施することがふさわしい事業であると考える。</p>		

NO	事業名	提案団体
3	八菅山いこいの森樹名板等作成事業	サークル愛川自然観察会
<p>【事業概要】 八菅山いこいの森の生物多様性に富んだ生態系の紹介と、その保全を目的として、観察路沿い（八菅神社の女坂沿い）の樹木への名板の取付けと、要所に説明板を設置し、文化的価値と、町民共有の財産である、いこいの森の魅力をPRするもの。</p> <p>【事業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 樹木への名板の取付け…（新規：行政提案） 2 生物多様性に富んだ生態系を紹介する説明板の設置…（新規：行政提案） 3 あおぞら館の展示物の継続的更新…（継続：みずとみどりの青空博物館の機能を高める事業） 4 季節ごとの自然観察会の開催…（継続：みずとみどりの青空博物館の機能を高める事業） <p>【団体の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自然動向の情報収集と町民目線での資料の公開 ②施設の本来の機能の点検、並びに維持・発展に寄与 ③本団体の人材活用と町民の生涯学習機会の充実（樹木名板の取付け及び説明板の設置） ④季節ごとの自然観察会の開催 <p>【町の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①協働による課題の共通認識、公共サービスの充実 ②事業の深化と施設や機能の充実 ③費用の効果的・効率的な執行 ④団体の地権者対応への支援 <p>【提案事業のポイント】</p> <p>・提案団体は、町内で自然環境の調査・保全を目的に積極的に活動しており、団体の人材、専門的知識並びに収集蓄積された資料を活用した情報発信が図られる。</p>		
<p>【審査部会講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 愛川山岳会の功績を更に発展させる提案を評価したい。 ○ きめの細やかな情報提供を心掛け、町民への生涯学習機会の充実化に寄与してほしい。 ○ 町は、地権者等への対応支援など、積極的に行ってほしい。 ○ 地元住民との連携を課題とし、事業の実施に際しては、広くPRするなど働きかけ、多くの住民が参加できるものとしてはどうか。 		
<p>【審査の結果】</p> <p>協働事業として実施することがふさわしい事業であると考える。</p>		

NO	事業名	提案団体
4	地域の安全・安心を皆で支える事業 ～地域防犯活動支援事業～	NPO法人防犯パトロール ブルーライン
<p>【事業概要】 地域の各種団体（自治会、育成会、子ども会等）の行う、防犯パトロールへの支援及び町の防犯パトロールとの連携などにより、町内における防犯活動の内容を底上げし、安心・安全のまちづくり推進に寄与する。</p> <p>【事業内容】</p> <p>1 地域の各種団体の行う防犯活動への支援 （H30.4～6月支援要望の取りまとめ H30.6～H31.3月支援実施）</p> <p>2 防犯・不審者情報の効果的な発信</p> <p>【団体の役割】</p> <p>①地域の各種団体が実施する防犯パトロールへの支援（車載拡声器による広報啓発等） ②町の実施する防犯パトロールへの支援 ③団体独自の町内パトロール時の必要な対応（町の青パトとの連携等） ④防犯・不審者情報及び防犯パトロールの実施状況等の情報発信</p> <p>【町の役割】</p> <p>①地域の各種団体からの支援要望取りまとめ及び連絡調整等（この事業の周知を含む。） ②防犯活動時の立会い等 ③会議室などの提供 ④防犯関連団体との連絡調整その他必要な支援</p> <p>【提案事業のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保有するパトロール車両、多様な情報発信手段など、提案団体の専門性が生かされる。 ・町が地域の各種団体を直接、支援するのではなく、提案団体が支援することで、行政依存になりにくいことが期待できる。 		
<p>【審査部会講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 行政提案型の協働事業だが、新たな年度の事業として、民間発想をどのように付加するのが課題。（「地域の絆づくり」などの新たな取り組み。） ○ 町との連携は不可欠なため、今後、更なる連携強化が望まれる。 ○ 地域への団体の活動（本提案事業等）の周知徹底が必要。 ○ アンケート調査実施にあたっては、結果分析を徹底して欲しい。 		
<p>【審査の結果】 協働事業として実施することがふさわしい事業であると考えます。</p>		